

資料No. 3

外国人差別ガイドライン聞き取りとの共同インタビュー

【日時】11月22日（日）午前10時30分～

【聞き取り】人権政策課 赤木、市民生活課 古川

タ イ：M. Wさん（50歳・20歳で来日）

 I. Kさん（48歳・20歳で来日）

 N. Pさん（65歳・35歳で来日）

インドネシア：M. Sさん（40歳・20歳で来日）

【概要】

■言語について

・日本語を勉強する場所があったが、仕事の時間と重なることが多かった。当時仕事を休んだ外国人はクビになるという風潮があったため、休むことができなかった。日本語は漫画、テレビなどで覚えた。

・方言がわかりにくかった（面白かったのですぐに覚えることができた）

■仕事について

・がんばっても昇任できない。

・面接時外国人ということをついたら一瞬ためらわれたが、面接をきちんとしていただき採用された。今では多くの外国人を受け入れてくれていて、自身も通訳などをすることもある。

・コロナで仕事を休んでいるが給与は保障されている。

■保育・子育て

・子どもがイジメにあい転校を余儀なくされた。解決に向けて加害者側の親と話したいのに話す機会を設けてくれなかった。

・イジメがひどく後ろからものを投げられる、男子にトイレに引っ張られ殴られるなどの行為があった。子どもはよくおなかが痛いと言って仮病を使って学校を休んでいた。今は、他県で生活しているが、成人式の際にもその記憶がよみがえり、伊賀には行きたくないと言っている。

・子どもは特に大変。母国のことを知ってほしく留学に行かせたが、日本語しかわからないため母国でも外国人扱いされて相当なストレスで自殺まで考えていた。自分は日本人と思っているが見た目のせいで日本でも外国人扱いされる。外国人でいることは日本でも母国でもしんどいことだ（本人にとって母国がない状態＝どこでも外国人扱いされる）。

・いじめられても親に心配をかけたくないという気づかいから日本の「大丈夫だよと言わな

い文化」がしみついていて、言ってくれない。

⇒日本の子どもの自殺が多いのはこのことが原因だと思う。

■医療・福祉

- ・子どもの年金など猶予があるがそういった制度や手続きがわかりにくい
- ・介護保険に加入する際、なんだかかわからないうちに加入していた。どのような制度でなぜ支払うのかわからないまま払っている。勉強の機会が欲しい。
- ・外国人同士の夫婦だと不安がいっぱい。子どもが生まれたときや様々な段階においての各種制度や手続きがわからない。

■日常生活

- ・子どもは日本人特有の国民性が定着しているが親はそうではないため、考え方に差がある。
- ・伊賀は住みやすいと思う。
- ・知り合いをいっぱい作りたいと思っている。

【日 時】11月22日（日）午後1時30分～

【聞き取り】人権政策課 赤木、市民生活課 古川、坂田

ブラジル：S. Hさん（65歳・42歳で来日）

K. Mさん（52歳・21歳で来日）

K. Aさん（59歳・28歳で来日）

【概要】

■言語について

- ・日本人が多い村に住んでいたため、ブラジルでも日本語ばかりであった
- ・日本語はテレビ（アニメ）、漫画、カラオケなどで覚えた。
- ・日本語は話す機会が多く覚えたが、きちんと学んでいないため読み書きが難しい。今更読み書きがしにくいことを言い出しにくく、書類などを作成するとき苦労する。きちんと学べる場所があったら良かったと思う。
- ・パートナーは日本語がわからず、会社の送迎でも家の場所を伝えることができず2時間彷徨い帰ってくることに苦労した。
- ・方言が難しかった。

■仕事について

- ・昇進することができた。
- ・職場にはいい人が多いし親切にしてくれる。

- ・日本語ができない場合極端に仕事の幅が狭まる。
- ・有給休暇の制度があることを知らなかった。誰も言ってくれない。

■保育・子育て

- ・有給休暇制度があることを知らず仕事を休むとクビという風潮もあったため、子どもの授業参観などに参加できなかった。（今は体制が整ってきている）
- ・PTAで役を引き受けたいと思っていたが、外国人であることを理由に充てられることはなかった。資料が読めないことを悔しくおもった。
- ・学校は通訳も含め充実していて本当にありがたい。

■医療・福祉

- ・年金や保険制度がわかりにくい。説明会などがあるとうれしい。
- ・年金や保険関係のはがきが届いたが意味が分からない。子どもに聞いた。
- ・定年を迎えたときどうなるか心配である。

■日常生活

- ・自身のルーツについて地域の人に言っていないのになぜか知られていた。（身元調査があったのか）
- ・災害時は地域で外国人専用の連絡網ができています。他の地域やPTAなどでもできればいいと思う。
- ・結婚時大反対されたが、当時妊娠していたため仕方なく受け入れてくれた。
- ・周りの友達も結婚時にトラブルになった例は聞いていない。部落の人たちのほうがしんどい思いをしていると感じる。同じ日本人同士で理解できない。
- ・何もしていないのに警察から頻りに職務質問を受ける。初めから疑われているような感じに色々聞かれる。外国人＝悪者扱いされているように感じる。人間として扱ってほしい。

【日 時】11月22日（日）午後3時～

【聞き取り】人権政策課 赤木、市民生活課 古川、坂田

ペルー : N. Pさん（40歳・11歳で来日）

アルゼンチン : S. Mさん（43歳・12歳で来日）

【概要】

■言語について

- ・日系人学校に行ったが、母国語で話すことがほとんどで覚えられなかった。テレビで覚えた。
- ・来日した当初は不安がいっぱいで学校に行けなかった。特にトイレに行きたいときに日本

語がわからないため何も聞くことができないことを不安に感じ学校へ行けなかった。

■仕事について

- ・派遣は工場がどうしても多く仕事の幅が狭い気がする。最近は介護職も増えてきた。
- ・コンビニに応募したが、電話したとき日本名（苗字）を言って日本語で話し面接へ話が進んでいたが、フルネームで教えてくださいと名前を聞かれ、名乗ると外国人はダメですと理由もなく断られた。
- ・有給休暇の制度などを知らなかった。知らないまま転職した。
- ・コロナ禍でも問題なく仕事できている。
- ・来日当時は仕事を休めない雰囲気があったそうだ。母が仕事を休めないので12歳の自分が妹の世話や家事をしていたので、学校へ行くことができなかった。母はそのことに対してすごく申し訳ないという感じであった。
- ・社会保険に入れてくれなかった。今でもそういったところはあるが、そのようなところにはこちらも行かないようにしている。

■保育・子育て

- ・子どもを高校・大学へ進学させたかったため、中学校の進路相談で高校進学の意味を伝えたら、外国人さんは中学卒業したらすぐに働く人もいますがどうですかと意思に反して就職を勧められた。
- ・イジメが多かった。（特に現在16歳の娘の中学時代）子どもは日本人ならイジメられないといって日本人になりたいと言っていた。自分が下の存在であるという意識があったようだ。何とか自分のルーツをプラスに考えられるようにしたいと思っている。
- ・ケンカしたとき「これが日本の文化だ」と言って外国人はなぜか向こうの家に謝罪に行かされるが、日本人から嫌なことをされたときには謝罪はなかった。
- ・髪の毛を黒くしなさいと強要された。証明写真を見せても信じてくれなかった。
- ・髪の毛にくせがあり、中学で巻いてないのにまき髪に見えて、巻いてるやろ、なおしてきなさいと、巻いてないと答えても初めから巻いていると決めつけて信じてくれなかった。
⇒先生によっても違いがある（理解してくれている先生もいる）

■医療・福祉

- ・制度がわかりにくい。傷病手当がわからなかったが、教えてもらいながらなんとか申請できた。制度や手続きがもう少しわかりやすいとうれしい。

■日常生活

- ・アパートやマンションは借りられるところが限られている。不動産屋さんに行くと「大家さんがだめなんですよ」とか「保証人が5人ほしい」と言われと断られるところが多い。

このことから不動産屋さんを介さず直接大家さんに貸してくださいというケースがほとんど。また、貸してくれる大家さんも限られているので、外国人の中で情報共有され、どうしても外国人が多く集まる物件として住むところが集中してしまう。

- ・駐車場を借りたく空いてますか、と尋ねたところ「あいてます」という返事であったが名前を聞かれ外国人であることがわかると断られた。（当該駐車場では以前に外国人によるタイヤの不法投棄があったことが理由）

- ・自治会に加入しているが、役をできると引き受けたにも関わらず最初から無理と決めつけられて嫌な思いをした。

- ・自治会にはお金を払っているが参加していない。組長は回ってこないが書類は回ってくる。配慮してくれているのかもしれないと思う。

- ・事故に遭ったとき相手に免許証見せてとか保険証見せてとか必要以上に疑われたように感じた。また、そのとき、保険はどうせ入っていないだろうと初めから決めつけられた。

【日時】11月23日（月）午後1時30分～

【聞き取り】人権政策課 服部、市民生活課 古川

中国 : O. Rさん（40歳台・27歳で来日）

C. Yさん（40歳台・29歳で来日）

日本（中国） : N. Eさん（51歳・26歳で来日）

日本 : W. Kさん（60歳）

I. Jさん（59歳）

【概要】

■仕事について

- ・ある時、勤めていた会社が社員用の椅子を新調することになった。社員数が多いため、一度に社員全員分を新調することができなかったようであるが、そこで優先されたのは日本人であった。その時、外国人は差別されていると感じたことがあったとの相談を受けた。

- ・職場における日本人と外国人の関係性が日常から良好であれば感じないことが、関係性が良くなくストレスが積み重なると、「外国人だから差別されている」と感じてしまうことがある。

- ・会社が自分の出身国に現地法人を設立し、そこへ派遣された（出向した）際に、日本人であれば当然付与される手当を受けられず、待遇の差を付けられた。これは本国出身（本国に家族がいる）であるためではないかと思う。

- ・日本では、同等同程度の仕事をしていても、給料に男女差があると聞か、そのことが日本人と外国人の間にも存在すると感じる。

- ・出勤時間が時間前ぎりぎりになった場合、日本人には何も言わないのに、外国人だと指導される。外国人は、日本人より誠実に仕事をしないと、注意や指導を受けやすい傾向がある。

- ・自分の会社の話ではないが、職場内で窃盗事件が発生した際に、まず疑われたのは外国人であったと聞いた。これは外国人に対する偏見ではないか。

- ・技能実習生の立場で来日しているので、不満を言わず、期間中我慢すれば良いと考える人もいる。他に扱いに不満があっても、外国人であることで会社に対して物申すことを遠慮している。

■保育・子育て

- ・半年以上不登校の外国籍の高校生に対して、事情や本人の気持ち等を聴くことなく、「休学届」の提出だけを求めて帰っていった教師がいた。これを外国人に対する差別と捉えるべきかどうか分からないが、生徒に対するサポートや配慮が足りないのではないかと感じた相談があった。

- ・高校は義務教育ではないためからか、小・中学校の時ほど、ケアが行き届いていない傾向があるように思う。

■医療・福祉

- ・日本で長らく生活しているのに、外国人であることを理由に受けられない公的支援もあり、基本的に本国の支援制度等の活用を迫られる。制度面で外国人が冷遇されていると感じることもある。

- ・定住外国人の高齢化が進んでいる中で、保険や年金、介護などの福祉制度のことをやさしく説明してもらえる窓口を設置する等の配慮が必要になってきている。また、年金が無い又は少額である等により将来の生活不安を抱く外国人が増えてくることが懸念される。

■日常生活について

- ・トイレの使用時等公共施設でのマナーが悪いと、外国人ではないかと疑われる。

- ・日本人と会話中、日本独特の「阿吽の呼吸」が分からず、失礼な物言いになったことがある。

- ・日本の社会において日本人がある程度優先されることは、外国人として受け入れなければならない部分もあると思っている。

■その他

- ・日本人を優遇しているまたは外国人を差別しているといった意図はなくても、被差別感情を起こさせないための配慮（事前に説明して理解してもらう等）が必要と思う。

- ・文化や価値観のちがいが理解できないことによって、そこに差別や偏見が生まれる。よって、行政や関係団体等が主導で日本人と外国人がもっと対話できる機会のつくることが重要である。